

## おかやま山陽高校天文台の設立と成果

○大出 康平<sup>1</sup> 山本 汐音<sup>1</sup> 山本 紫苑<sup>1</sup> 原田 一成<sup>1</sup> 金子 大輝<sup>2</sup> (1.おかやま山陽高等学校 2.おかやま山陽高等学校/栃木県子ども総合科学館)

おかやま山陽高校の位置する岡山県浅口市は「京都大学せいめい望遠鏡」「国立天文台188cm反射望遠鏡」が建設されるほど天体観測に優れる街である。星をみるには日本屈指の立地ではあるが、これまで定期的な星空観望会が開催される天文台は存在していなかった。そこで、子どもたちや地域の方々に浅口の素晴らしい星空をみてもらいたいとの想いから、本校100周年記念として新校舍屋上に口径50cm反射望遠鏡「きらぼし望遠鏡」が令和6年7月に完成した。口径50cmは岡山県内の高校では最大口径である。接眼部をナスミス焦点にすることで、子どもや車いすの方にも見やすく、望遠鏡の格納は移動式シェルターを採用することで、望遠鏡で星をみながら全天の星を楽しめる眼視に特化した設計となっている。

きらぼし望遠鏡を軸に屈折式望遠鏡や対空双眼鏡も準備して、令和6年8月から本校での星空観望会が始まった。昨年度までに計12回の星空観望会を実施し、約350名の方々に参加していただいた。参加者の多くはファミリー層となっており、参加者の約4割は小中学生であった。また、浅口市や隣の里庄町や倉敷市からの来場が多く、子どもたちや地域の方々に浅口の夜空を見てもらいたいという目的は達成されつつある。

星空観望会の運営スタッフには、本校天文部員も携わっている。星空案内を務めるために「星空案内人」の資格取得に励んだり、生徒自身で屈折式望遠鏡を操作する技術向上に努めたりするなど、本校生徒の教育の役割も果たしている。講演では、きらぼし望遠鏡の性能や天文部員の活動状況、今後の展望についても報告を行う。

